

新マルキン事業について

(社) 岡山県畜産協会 経営指導部

肉用牛肥育経営安定対策事業（マルキン事業）の終了に伴い、平成22年度から肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン事業）が、実施されることとなりました。以下では、新マルキン事業において補てん金が交付される条件等について説明しますので、肉用牛肥育経営の安定における、本事業が持つ役割について、より一層のご理解を願いたいと思います。

【平成20年度の生産費調査について】

表1は、平成20年度の肉用牛肥育経営の生産費等を示しておりますが、所得（マルキン事業の補てん金等を含まない）は、いずれもマイナスの値となっています。さらに、平成21年度においては、枝肉価格の低落により、肉用牛肥育経営の収益性はさらに悪化しました。

【マルキン及び補完マルキン事業について】

このような状況のなか、平成20年度第3四半期（平成20年10～12月）以降、全品種のマルキン事業の満額交付、さらに補完マルキンによ

る交付が事業終了まで継続しました。

【新マルキン事業の補てん金交付について】

新マルキン事業は、四半期平均粗収益が四半期平均生産費を下回った場合に、その差額の8割以内を交付する事業となっております。表1の場合を新マルキン事業の算定に当てはめると、「(③-①)×0.8」以内の額が交付されることとなります。

このように、新マルキン事業は、若干算定方法が異なりますが、マルキン事業と補完マルキン事業を一本化した事業となっております。

【最後に】

新マルキン事業では、補完マルキン事業で交付していた部分も、基金から交付することとなったため、生産者積立金が増額されましたが、肉用牛肥育経営の収益性が悪化した時期を乗り切るために必要不可欠な事業でありますので、事業の推進等、ご協力のほどよろしく申し上げます。

表1 平成20年度肉用牛の生産費及び収益性（肥育牛1頭当たり）

(単位：円)

		去勢若齢肥育牛		交雑種肥育牛		乳用おす肥育牛		
粗収益	主産物価額	867,041	99%	519,531	99%	350,843	98%	
	副産物価額	11,564	1%	6,766	1%	6,377	2%	
	計(①)	878,605	100%	526,297	100%	357,220	100%	
生産費	物財費	もと畜費	561,339	57%	246,948	38%	117,310	28%
		流通飼料費	332,649	34%	345,538	53%	258,953	62%
		その他	72,797	7%	49,974	8%	35,815	9%
		計	966,785	98%	642,460	99%	412,078	99%
	労働費(家族労働費以外)	4,686	0%	1,484	0%	1,312	0%	
	支払利子	14,236	1%	5,821	1%	2,635	1%	
	支払地代	379	0%	217	0%	126	0%	
	計(②)	986,086	100%	649,982	100%	416,151	100%	
	家族労働費	68,065		43,096		25,674		
	計(③)	1,054,151						
自己資本利子	10,456		13,527		5,615			
自作地地代	2,267		1,435		1,042			
所得(①-②)	-107,481		-123,685		-58,931			

資料：農林水産省「農業経営統計調査 平成20年度肉用牛生産費」

注1) 粗収益には、肉用牛肥育経営安定対策事業の補てん金等の補助金を含まない。

注2) 新マルキン事業の算定には、農業経営統計調査以外に以下の資料を用い

主産物価額：農林水産省「食肉流通統計」。

もと畜費：(独)農畜産業振興機構「肉用子牛取引情報」。

もと畜費以外の費用：一部の項目は、農林水産省「農業物価指数」を用いて、変動率により得た数値。